

- Miss Gwendolyn Johnson: Population Division, United Nations, New York, U. S. A.
年月日: 1968年5月27日
用務: 本研究所の調査研究活動の視察
連絡機関: Population Division, United Nations
- Mr. John F. Marshall: East and West Center, University of Hawaii, Honolulu, U. S. A.
年月日: 1968年5月31日
用務: 日本における家族計画の調査その他についての事情聴取
- Dr. Rafael A. Esmondo: Medical Director, University of the Philippines, Basilan City, Philippines
年月日: 1968年6月4日
用務: 日本における出生力および家族計画に関する視察
連絡機関: 国際家族計画連盟
- Prof. Sidney Goldstein: Professor of Sociology, Brown University, U. S. A.
年月日: 1968年6月6日
用務: 本研究所における人口問題の研究状態視察
連絡機関: Population Division, United Nations
- Mrs. Margaret Hollerman: Visiting Professor, Sophia University (上智大学, 東京)
年月日: 1968年6月12日
用務: 本研究所における調査研究の視察
- Mr. Calvin M. Endo: Graduate Student, Oregon University, U. S. A.
年月日: 1968年6月17日
用務: 地域の社会学的調査について意見聴取
- 林 清祥氏 (Mr. Ching-Hsiang Lin): 台湾人口研究中心助理研究員
林 武照氏 (Mr. Wu-Chao Lin): 台湾東海大学中国文学系
年月日: 1968年6月17日
用務: 本研究所における人口問題の調査研究状況の視察
連絡機関: 台湾人口研究中心

第 20 回 日 本 人 口 学 会 大 会

標記の大会は、昭和43年5月11・12の両日にわたり福岡・久留米大学（医学図書館合同講義室）において開催された。日本人口学会の年次大会が東京以外の地で開かれたのは今回が初めてで、久留米大学医学部環境衛生学教室安倍弘毅教授を委員長とする大会準備委員会の多大の努力によって盛大な大会日程を終了した。大会プログラムは下掲のごとくであるが、大会初日の前夜（10日 18:00より）、久留米市石橋文化ホールにおいて記念公開講演会が催され、久留米大学学長遠城寺宗徳氏による「健康長寿へのみち」および人口問題研究所館 稔所長による「明治百年と日本の人口問題」のふたつの講演が行なわれた。

なお、大会会期中に行なわれた学会役員改選によって古屋芳雄理事が会長に選出され、かねて辞意を表明されていた前会長永井 亨氏は、長年同学会会長として尽くされた功績をたたえられ、総会において名誉会員に推薦された。

総会において選出された次期（任期2年）役員を示すと次のとおりである。

(得票順)

会 長	古 屋	芳 雄	(日本家族計画連盟会長)
常務理事	館	稔	(人口問題研究所長)
	南	亮三郎	(駒沢大学教授)
	水 島	治 夫	(九州大学名誉教授)
	森 山	優 三	(青山学院大学教授)
	寺 尾	琢 磨	(慶応義塾大学教授)
理 事	岡 崎	文 規	(竜谷大学教授)
	上 田	正 夫	(人口問題研究所人口政策部長)
	曾 田	長 宗	(国立公衆衛生院長)
	篠 崎	信 男	(人口問題研究所人口資質部長)
	安 倍	弘 毅	(久留米大学教授)
	小 山	柴 三	(立教大学講師)
監 事	黒 田	俊 夫	(人口問題研究所人口移動部長)
	三 原	信 一	(毎日新聞社人口問題調査会常任理事)

研究発表会において行なわれた報告の題名および報告者を掲げると次のごとくである。

第1日(5月11日)

○研究発表

- 1 小地域における将来人口の推計…………… 仮谷 太一 (岡山理科大学)
- 2 就業構造からみた女子労働の特徴…………… 岡崎 陽一 (人口問題研究所)
- 3 世帯規模と若干の人口学的要因との関係…………… 館 稔 (人口問題研究所)
山口 喜一 (")
金子 武治 (")
- 4 若干の外国都市人口分布に適用した「成長的順位法則」…………… 館 稔 (人口問題研究所)
三澤 緋佐子 (")

○特別講演

- 人口学最近の動向——人口政策学への道…………… 南 亮三郎 (駒 沢 大 学)

○研究発表

- 5 農村における中高年の労働力資質問題——典型的事例研究による考察——…………… 篠崎 信男 (人口問題研究所)
萩野 嶋子 (")
- 6 人口移動の類型理論…………… 兼清 弘之 (亜細亜大学)
- 7 労働移動の経済分析…………… 高木 尚文 (成城大学)
- 8 新産業都市周辺の人口移動——松本諏訪地区の事例研究——…………… 大淵 寛 (中央大学)
- 9 除籍簿による久留米市御井町住民の通婚圏について…………… 高橋 啓嗣 (久留米大学)
安倍 弘毅 (")
江崎 廣次 (")
中尾 泰博 (")
龍 則子 (")

○シンポジウム

- 1 地域開発と人口移動…………… 司会… 栗村 雄吉 (久留米大学)
- (1) 九州における労働市場の最近の動向…………… 江口 傳 (久留米大学)
- (2) 労働力人口再生産構造の地域変動…………… 濱 英彦 (人口問題研究所)
- (3) 地域開発と人口移動の関係と今日の課題…………… 黒田 俊夫 (人口問題研究所)

第2日(5月12日)

○研究発表

- 10 地域的男女差の異常について……………佐藤 峰雄(大分県日田保健所)
- 11 八重山群島, 黒島における乳児死亡, 分娩状況および人口変動
について……………吉村 健清(九州大学)
倉恒 匡徳(九州大学)
- 12 わが国夫婦の基本妊娠率について……………青木 尚雄(人口問題研究所)
- 13 最近のわが国出生力の動向……………小林 和正(人口問題研究所)
山口 喜一(人口問題研究所)
- 14 日本人の出生, 死亡と人口(生残)の年次推移の研究——死亡
表解明のための一つのころみ——……………飯淵 康雄(大阪大学)
- 15 韓国のモデル生命表について……………石 南国(函館大学)
- 16 1965年都道府県別生命表……………水島 治夫(九州大学)
重松 峻夫(鳥取大学)
- 17 人口移動と人口学的基本構造, 再生産力との関係……………上田 正夫(人口問題研究所)
- 18 人口指標を中心としてみた, わが国民の生活像に関する人間
生態学的研究……………山本 幹夫(順天堂大学)

○シンポジウム

- 2 人口老年化に関する諸問題……………司会…安倍 弘毅(久留米大学)
- (1) 近代化と人口の老年化……………安川 正彬(慶応義塾大学)
- (2) 長寿率からみた人口老年化の実態……………江崎 廣次(久留米大学)
- (3) 老年者の心臓……………木村 登(久留米大学)
- (4) 農村における人口老年化の分析と問題点……………柳澤 文徳(東京医科歯科大学)
- (5) 人口老年化と社会保障制度の将来の問題……………井手 一郎(聖マリア病院)
- 特別発言……………水島 治夫(九州大学)

(小林和正記)

東 亞 人 口 研 討 会 議

東亜人口研討会議(Workshop Conference on Population Problems in East Asia)は, 1968年5月1日から5月7日までの1週間にわたり, アメリカ人口研究協会(Population Council), 中華民国婦幼衛生協会(The Maternity and Child Health Association of the Republic of China) および中華民国政府の共催の下に, 台湾省台北市中央政治大学において開催された。

参加者は韓国, 日本, 琉球, 台湾, 香港, フィリピン, ラオス, ベトナム, インドネシア, タイ, シンガポール, マレーシアの12か国の代表と Population Council の東アジア各地の代表, アジア開発銀行, 世界銀行, 国際家族計画連盟の代表等であって約70名に達した。本研究所の人口移動部長黒田俊夫技官は日本政府代表としてこれに出席した。その他, 国立公衆衛生院村松 稔家族計画室長, 国際家族計画連盟片桐為精西太平洋地域事務局長が参加した。

この会議の議題は, (1)経済発展に及ぼす人口圧力の影響, (2)家族計画プログラム: その現状, (3)プログラムの財政問題, (4)家族計画における評価, (5)要員の募集, 訓練, 監督に関する諸問題, (6)特定の避妊方法におけるプログラムの諸問題であって, さらに最後に, グループ別討論として「東亜における家族計画プログラムの経験の最善の利用の仕方」が行なわれた。